

ご先祖様から私たちへの贈りもの

自然災害伝承碑の事例
(大阪府)

初版 (2022 年 11 月 12 日)

令和 4 年 11 月

辻 謙一 現地撮影

○文章は一部 国土地理院地図等から引用

○本資料は研究用して整理したものである

○標題における「○」は国土地理院地形図に掲載済箇所、「●」は未掲載箇所

○枚方市 淀川伊加賀 水害
○高槻市 淀川大塚 水害
○高槻市 淀川唐崎 水害
●大阪市 都島区 水害
●大阪市 浪速区 水害
●大阪市 北区（現在） 水害
○大阪市 西区 水害
●大阪市 大正区 水害
●大阪市 都島区櫻宮 水害
●東大阪市 徳庵 水害
●寝屋川市 赤井堤 水害
○大阪市 西淀川区 大塚切れ 水害
○大阪市 浪速区 安政南海地震 津波
○大阪市 天王寺区 四天王寺 安政南海地震 津波
●大阪市 生野区 舍利尊勝寺 安政東南海地震 津波
○堺市 大浜北町 擁護璽（ようごじ）（安政地震記念碑）
●大阪市 鶴見区 寝屋川改修記念碑 水害
●大阪市 鶴見区 正因寺境内 六郷修堤碑 水害
●大阪市 中央区 大阪城公園内 教育塔 強風・高潮
○高槻市 清福寺町 陸軍工兵殉難之碑 水害
●大阪市 此花区 津波
●大阪市 此花区 正蓮寺 震災
●大阪市 福島区 海老江中公園内 水害
○大阪市 城東区 榮照寺 風水害
○大阪市 城東区 今福小学校 風水害
○大阪市 城東区 聖賢小学校 風水害
●大阪市 西淀川区「外島保養院」跡地 室戸台風
○大阪市 東成区深江南 水害
●大阪市 港区 築港南公園 風水害
●大阪市 港区 天保山 風水害
○大阪市 西区 九条東小学校 暴風水害記念誌 風水害
●枚方市 長安寺 暴風
○寝屋川市 水本墓地 暴風
○寝屋川市 打上墓地 暴風
●茨木市 安威川茨木川合流 水害
●枚方市 砲弾解体中の引火

- 摂津市 千本つきの歌 淀川 水害
- 枚方市 上庄南之口樋跡
- 堺市 関西大風水害殉職者慰霊碑 風水害
- 堺市 十輪院 風水害
- 堺市 宝珠院 風水害
- 堺市 月蔵寺 風水害
- 堺市 経王寺 風水害
- 堺市 三宝小学校 風水害
- 堺市 三宝公園西 津波
- 大阪市西区 関西風水害浸水深（現存せず） 風水害

○16 か所

●30 か所

○枚方市 淀川伊加賀 水害



(碑文 要約)

明治 18 年(1885) 6 月 18 日・7 月 2 日の豪雨により、現在の枚方市伊加賀付近の淀川堤防が約 180m にわたって決壊した。

通称伊加賀切れと呼ばれるこの水害は、茨田郡(現守口市・門真市、枚方市・寝屋川市・大東市等の一部)一円を水没させ、濁流は大阪市中にも及んだ。この水害では、2 万 6 千戸以上が流失、約 290 人が亡くなったとされる。

碑は枚方市登録文化財となっている。(現在地へは 2010 年に移設)

○高槻市 淀川大塚 水害



(碑文 要約)

大正6年(1917)10月1日、台風による大雨で淀川の水位が上昇し、高槻市大塚町の堤防が200mにわたって決壊した。家屋は流され、倒壊し、死傷者は数十人にのぼった。

後世への戒め

「居安必勿忘危(安楽に暮らしていても、絶対に危機のあることを忘れてはならない)」

○高槻市 淀川唐崎 水害





(碑文 要約)

明治元年（1868 年 7 月 1 日）、折からの長雨で、唐崎弥右エ門屋敷堤防が延長 309m にわたって決壊。前島や大塚などでも堤防が切れ、被害は 165 か村、浸水面積 5,400ha にのぼった。

明治 18 年水害による修堤碑も併設。

●大阪市 都島区 水害



(碑文 原文)

都島区は、これまで幾多の水害に見舞われてきたが、中でも明治18年1885年の大洪水による被害は大きく、東成郡27ヶ村が水中に没した。そこで濁水を淀川に戻すため、野田村の現在の網島町の堤防を切り崩し、徐々に放流した。近年こうした大水害はほとんど見られなくなったが、このような平時において、なお、一層人々が水防意識を高め、不断の努力で、災害を防除することを祈願して、この碑を建立する。

昭和55年秋 大阪市

●大阪市 浪速区 水害



(碑文 原文)

浪速区はこれまで台風に伴う高潮により、幾多の水害に見舞われたがなかでも昭和九年(一九三四)の室戸台風、同二十五年(一九五〇)ジェーン台風、同三十六年(一九六一)の第二室戸台風により、多くの人命と財産が失われた。近年こうした大水害はほとんど見られなくなったが、このような平時においても、なお一層人々が水防意識を高め、不断的努力で災害を防除することを念願してこの碑を建立する。 昭和 55 年秋 大阪市

●大阪市 北区（現在） 水害









(碑文 原文)

大淀区はこれまで台風に伴う高潮により幾多の水害に見舞われたが中でも昭和九年(1934)の室戸 同三六年(1961)の第二室戸台風より多くの人命と財産が失われた

近年こうした大水害はほとんど見られなくなったがこのような平時においてもなお一層人々が水防意識を高め、不断の努力で災害を防除することを念願してこの碑を建立する

昭和 55 年秋 大阪市

(碑文 原文)

明治十八年淀川の堤防決壊して大水氾濫ありてより同川改修の議起り其廿九年大土功を開始し同三十二年十三町民家立退を命せられ同卅五年十三橋完成す其川幅元一百間なりしを三百八十五間餘改て令られてして同四十二年六月本川改修の竣功式を毛馬閘門に挙る茲に本家町の親友會諸氏等相謀リシ道標を遣立し燈を設けやり置往来を安全ならしむ予俳得を賦して頌耳代鶴翁云

浪花南水讀斎書 印 印

燈雲乃花野こし遍尔照し多李

水防碑

災害は忘れたころにやってくる





（碑文 原文）

西区は、これまで台風に伴う高潮により幾多の水害に見舞われたが、なかでも昭和9年（1934年）の室戸台風同25年（1950年）のジェーン台風、36年（1961年）の第2室戸台風により多くの人命と財産が失われた。近年こうした大水害は、ほとんど見られなくなったが、このような平時においても、なお一層人々が、水防意識を高め不断の努力で災害を防除することを念願してここ長堀川跡にこの碑を建立する。

昭和53年 秋 大阪市

●大阪市 大正区 水害





(碑文 原文)

大正区は、これまで台風に伴う高潮により幾多の水害に見舞われたが、なかでも昭和9年(1934年)の室戸台風、同25年(1950年)のジェーン台風などにより、多くの人命と財産が失われた。

近年こうした大水害はほとんど見られなくなったが、このような平時においても、なお一層人々が、水防意識を高め、不断の努力で災害を防除することを念願してこの碑を建立する。

昭和52年 秋 大阪市

●大阪市 都島区櫻宮 水害



(碑文 要約)

明治 18 年 6 月枚方市伊香賀で堤防が切れ、北河内全域まで浸水が拡がり、大阪市公邸あたりの堤防を人工的に開いて(俗称:わざときり)、北河内全域の水を大川に戻した。その後、暴風雨が来て、さらに被害が拡大した。同時に大阪府知事の建野郷三の強いリーダーシップが称えられている。

堯の時代には水害が、湯の時代には旱があったように、天は歴代の国家に災いを降り下ろしてきた。故に、舜の時代には垂拱の治という平穏な治世があったが、それでも自然災害を絶無にさせることはできなかった。このため為政者は、水害で溺れた被災者たちを救うことに、心を尽くさなければならなかった。明治十八年乙酉夏六月に、大雨が長く続き、淀川がいきなり暴漲し、茨田郡伊加賀村の堤防が決壊して、摂河諸郡一四五村が水没した。水勢は浩々として、見渡す限り際限なく水面が広がった。住民は逃げまどい、子供や年寄りには叫び声を上

げた。ある者は屋根上に乗って水を避け、ある者は木に登って救いを求め、走って逃げる者、泣く者、顛者、蹶者、その悲惨な様は、ことばにすることができないほどであった。被災地の多くは大阪府に属した。府知事の建野君は、急を聞いてただちに蹶起するというには、人命は何者よりも重い、一時もおろそかにはできない。ただちに櫻井郡長や土木課員らと会って、堤防を切る相談をした。実に六月十八日のことである。翌日正午、知事は数名の幹部職員を率いて網島に赴き、現場支局を起ち上げて陣頭指揮をとった。すなわち、鎮台将校と協力して、役夫千人余りを動員して野田村の堤防をわざと切り洪水の勢いを殺した。これによって摂河諸郡の人民は息を吹き返し、魚の餌食となることを免れた。未だ嘗て、このような偉業が為されたことはなかった。このようにして、前災が取り除かれたと思ったら、続けざまに後患がやってきた。その月の二十九日、暴風がはげしく吹き、水かさが増加した。まるで万馬が駆け、百雷が轟くようであった。見る間に桜宮堤防が決壊して、勢い余って氾濫した水は一気に市街に流れ込んだ。市街はまたたく間に水に沈み、橋梁は悉く分断され、その惨状は以前を上回った。知事は、水害に罹災した民が、衣食に不自由することを予想して、糧食を用意してこれを救援しようと考えた。すると、市井の人民や外国の商人から、衣服や食糧が続々と届き、さらに財物の寄付もどんどん寄せられた。また、大いに工事を起こして堤防を修理し、これにより貧民を救済した。七月にはじまり、九月に竣工した。被災して困窮した民が飢餓を免れたのも、また、未だ嘗てなかった力によるものである。そもそも茨田・東成二郡が、野田村堤防を切って水害を免れたのは、この百年余りの間で、今を去る八十年前である。ただ、享和・文化の水害は、徳庵堤が水没した後に堤を切ったが、今回は先に徳庵堤が水没する前に堤を切った。これは、人命を守って、水害を免れようとしたもので、その功績効果は歴然で、以前の倍にあたるものである。もしもぐずぐずと躊躇って堤を切っていなかったならば、摂河諸郡が水害を被っただけではなく、それによって波及した被害は計り知れない。この後、淀川の水害に直面したときには、これを鑑として、また戒めとするべきであろう。今年、水害に罹災した村中すべての人民は、保護していただいた功德に感謝して、ここに記念碑を作り、あきらかな戒めとして、末永く後世に伝えることとした。銘に曰く。大水が丘陵を襲い、伯禹に非ざれば人はみな溺れる家屋は水に沈み竈はカエルの棲みかとなる水は床上十尺余り屋根に乗る者木に登る者一家揃って樓上に避難する府知事曰く、人命は重し堤防をわざと切り、樋門を開いて排水した水が引いて土が現れ、すきで耕すことができ本来の生業に戻り、ふだんの生活を取り戻す顕彰の立派な碑を建てて功績を刻む民びとに仁を垂れたのは誰だったのか
明治十九年丙戌春三月建野府知事篆額菊池純撰文邨田浩蔵書丹

●東大阪市 徳庵 水害





（碑文 背景 京都歴史研究 木谷 幹一氏論文から引用）

水害の発生から寝屋川以南での被害概況、復旧活動が刻まれている。

明治十八年六月、長雨が十日も続き、同月十七日に淀川はいきなり水かさが増し、茨田郡伊加賀村で堤防が決壊した。たちまちのうちに氾濫した水は溢れかえり、茨田・讃良・東成の三郡に及び、南は寝屋川まで至った。あたり一面に浩々と水が広がり、ほとんどまさにわが郡内にまで及ぼうとしていた。

そこで、徳庵から角之堂までの凡そ千八百余間に仮設の堤防を築き、不測の事態に備えた。同月二十八日には、二昼夜にわたり劇雨疾風が止まず、水の勢いはますます壮んになり、ついに寝屋川の堤防が決壊して、若江・河内・渋川三郡五十余村は水没してしまった。年寄や子供は大声を上げてわめき叫び、その悲惨さは例えようもなかった。郡の役人や警官は、桴や筏を作り、舟を漕いで溺れているものを救助し、食べ物に困っているものには、衣服や食料を与えて、これを芝、菱屋東新田、高井田、八尾、久宝寺の諸村の寺院や校舎に護送した。生存者は、一万二千四百余人であった。七月八日になると、水没していた地面が現れ、人々はやっと安息した。小作人たちは、享和・文化の水害と比較して、水量はそれよりも五尺あまり高かったといいあった。今年になって、水害に罹災した庶民たちが相談しあっているというには、宮家から受けた保護のご恩は、記録に残さずにはいられないということになり、余は記念碑の銘辞を託された。その銘に曰く、執決滔水堤防を決壊させて洪水を排水し、泄諸尾閭末端の水門をすべて開いて排水し、救塾恤溺：溺れたものを救って助けていただき、民始安居：住民ははじめて安居することができた。

●寝屋川市 赤井堤 水害





(碑文 背景 寝屋川市 HP から引用)

赤井堤記念碑は、枚方市との境の淀川堤防に立っています。背の高い碑で、明治 18 年 6 月の大洪水の翌年に大阪府知事の名で建てられました。

淀川百年史などによると、淀川堤防が決壊して起きた大洪水では、左岸一帯の 997 町村で 7 万 249 戸が浸水し、27 万 6049 人が被災しました。

このとき、木屋村の北にあった赤井堤も約 360 メートルにわたって決壊したといえます。高さ約 3.6 メートルの碑には「家屋三十五を消失し、良田は土砂流入により壊滅した」と記されています。

当時の新聞では、茨田・讃良郡の死者・不明者は 51 人に上ったといえます。記念碑は堤防が決壊した場所に建てられ、水害の怖さを今に伝えています。

○大阪市 西淀川区 大塚切れ 水害



(碑文 背景 西淀川区 HP から引用)

大正 6 年 9 月末の豪雨により淀川右岸三島郡大冠村(現在の高槻市)大塚の堤防が二百メートルにわたり決壊しました。この洪水の

決壊箇所から「大塚切れ」と呼ばれました。三島郡の大半を沈め当時西成郡であった現在の東淀川区、淀川区、西淀川区一帯は泥海と化し、十三付近で浸水八尺(約 2.4 メートル)に達しました。この洪水による浸水町村数 三十一、罹災戸数一万五千四百九十七戸、罹災人口四万六千四百九十一人に達しました。

当時の福村では、十月一日夕刻、村民に対して避難するよう通告されました。そして三日昼過ぎ、さらに濁流が押し寄せました。そして十月中旬ようやく淀川の水位が下がりはじめました。浸水各村内の水位の方が淀川より高いので、今の国道四十三号より上流約二百メートルの個所で淀川の堤防を切開して停滞していた湛水を淀川へ流し出しました。福村で地面を見ることができるようになったのは、ほぼ一ヶ月後の十一月五日でした。現在、湛水を流し出すために堤防を切開した地点の右岸堤防に大塚切洪水碑が建てられています。

○大阪市 浪速区 安政南海地震 津波





(碑文 背景 大阪市 HP から引用)

1854 年 12 月 24 日の安政南海地震後に発生した津波によって、安治川・木津川等に停泊する船に避難した人々が大きな被害を受けた。1707 年に発生した宝永地震の時に起きた同様の災害の教訓が生かせなかったことを、後世への戒めとして残すため建立されている。

嘉永七年(一八五四年)六月十四日午前零時ごろに大きな地震が発生した。

大阪の町の人々は驚き、川のほとりにたたずみ、余震を恐れながら四、五日の間、不安な夜を明かした。この地震で三重や奈良では死者が数多く出た。

同年十一月四日午前八時ごろ、大地震が発生した。以前から恐れていたのも、空き地に小屋を建て、年寄りや子どもが多く避難していた。

地震が発生しても水の上なら安心だと小舟に乗って避難している人もいたところへ、翌日の五日午後四時ごろ、再び大地震が起こり、家々は崩れ落ち、火災が発生し、その恐ろしい様子がおさまった日暮れごろ、雷のような音とともに一斉に津波が押し寄せてきた。

安治川はもちろん、木津川の河口まで山のような大波が立ち、東堀まで約一・四メートルの深さの泥水が流れ込んだ。両川筋に停泊していた多くの大小の船の碇やとも綱は切れ、川の流れは逆流し、安治川橋、亀井橋、高橋、水分橋、黒金橋、日吉橋、汐見橋、幸橋、住吉橋、金屋橋などの橋は全て崩れ落ちてしまった。さらに、大きな道にまで溢れた水に慌てふためいて逃げ惑い、川に落ちた人もあった。

道頓堀川に架かる大黒橋では、大きな船が川の逆流により横転し川をせき止めたため、河口から押し流されてきた船を下敷きにして、その上に乗り上げてしまった。大黒橋から西の道頓堀川、松ヶ鼻までの木津川の、南北を貫く川筋は、一面あつという間に壊れた船の山ができ、川岸に作った小屋は流れてきた船によって壊され、その音や助けを求める人々の声が付近一帯に広がり、救助することもできず、多数の人々が犠牲となった。また、船場や島ノ内まで津波が押し寄せてくると心配した人々が上町方面へ慌てて避難した。

その昔、宝永四年(一七〇七年)十月四日の大地震の時も、小舟に乗って避難したため津波で水死した人も多かったと聞いている。長い年月が過ぎ、これを伝え聞く人はほとんどいなかったため、今また同じように多くの人々が犠牲となってしまった。

今後もこのようなことが起こり得るので、地震が発生したら津波が起こることを十分に心得ておき、船での避難は絶対してはいけない。また、建物は壊れ、火事になることもある。お金や大事な書類などは大切に保管し、なによりも「火の用心」が肝心である。川につないでいる船は、流れの穏やかなところを選んでつなぎ替え、早めに陸の高いところに運び、津波に備えるべきである。

津波というのは沖から波が来るというだけではなく、海辺近くの海底などから吹き上がって来るともあり、海辺の田畑にも泥

水が吹き上がることもある。今回の地震で大和の古市では、池の水があふれ出し、家を数多く押し流したのも、これに似た現象なので、海辺や大きな川や池のそばに住む人は用心が必要である。

津波の勢いは、普通の高潮とは違うということを、今回被災した人々はよくわかっているが、十分心得ておきなさい。犠牲になられた方々のご冥福を祈り、つたない文章であるがここに記録しておくので、心ある人は時々碑文が読みやすいよう墨を入れ、伝えていってほしい。

安政二年(一八五五年)七月建立

※下線は、辻が記載

○大阪市 天王寺区 四天王寺 安政南海地震 津波



(碑文 要約)

嘉永7年11月4日・5日(1854年12月23日・24日)の地震被害を避けようと小船に避難した者たちが、湧くような勢いで木津川口に押し寄せた津波によって、大小の船もろとも上流へ押し流され、おびただしい死者を出した。海鳴があったり潮の干満が乱れたりする時は津波の兆しと知って、避難するよう記している。

(碑文 原文)

[正面] 諸国地震及洪浪南無阿彌陀佛水陸横死大菩提

[南面] 去年霜月四日五日の地震を遁のがれん為に小船に乗居し輩 やから俄にわかの洪浪湧か如く木津川口邊の大小数あまた船一時に川上に押寄橋を落し船を摧くだき漂没死人夥おびただし尤前日より海鳴潮の干満乱しを志ら寿して死に至る者寔まこと憐むへし后世

[裏面] 海鳴潮の干満かんまんみだれし時は早く津波の兆と知りて難をのかれ玉ふへしと云いう爾のみ 安政二乙きのと卯秋建之

[北面] (梵語の記載のみ)

●大阪市 生野区 舍利尊勝寺 安政東南海地震 津波



(碑文 原文)

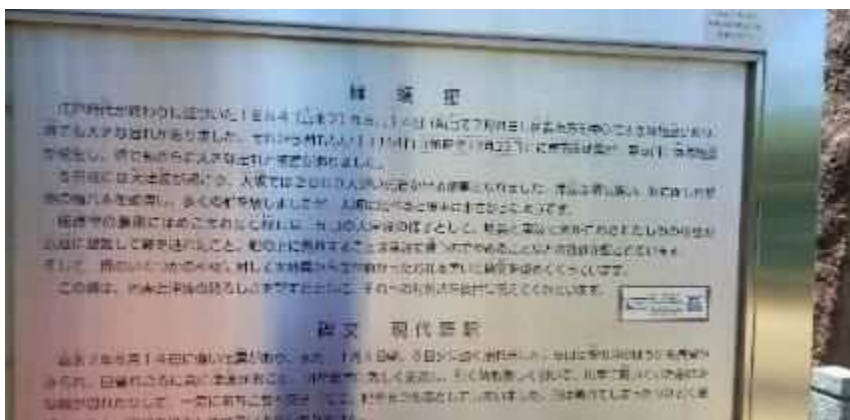
〔西面〕永代常念經回向 当寺

〔南面〕為地震津波横死建之 〔北面〕嘉永七年甲寅十一月

嘉永7年11月と、安政東南海地震が起こったまさにその月の年紀がみられることから、この災害に動機づけられて建立されたものと思われる
(安政へと改元されたのは同月27日)

○堺市 大浜北町 擁護壘（ようごじ）（安政地震記念碑）





(碑文 要約)

嘉永7年(1854)11月5日(旧暦)の安政南海地震後に発生した津波が川を逆流し、堺でも8つの橋が落ち船が割れるなどの被害を受けた。しかし、住民は神社の広い境内に避難するなどして怪我をした人もいなかった。宝永地震(1707)では船に避難して命を落とした人も多い。地震が強いときは決して船に避難してはいけない。(現在地へは1895年に移設)

●大阪市 鶴見区 寝屋川改修記念碑 水害



(碑文 要約)

寝屋川は交野市星田を水源とし、河内から大阪市内までを東西に結ぶ重要な水路である。かつては農作物や肥料を運搬した剣先舟や、野崎参りの屋形舟が利用していた。洪水時には、濁水が氾濫して住民に危険が及んだことから、「放出の太閤さん」と称された大橋房太郎が立ち上がり、寝屋川改修を訴え続けた結果、大阪府は改修工事に着手し、昭和2年(1927)に新喜多橋～徳庵区間が竣工した。

●大阪市 鶴見区 正因寺境内 六郷修堤碑 水害



(碑文 要約)

明治 18 年 (1885) 淀川堤が伊加賀で決壊し、大阪は有史以来の大水害に見舞われた、当時大橋房太郎は弱冠 25 歳、東京で鳩山和夫氏 (元総理大臣鳩山一郎氏の父君) の書生として法学の勉強をしていたが、その惨状を目のあたりにし治水事業の重要かつ緊急性を痛感するや鳩山総理の許しを辞して大阪に帰り淀川をはじめ寝屋川、六郷川などの治水事業に命を捧げ世に「治水翁」と尊称され、庶民からは「放出の太閤さん」呼ばれた。

六郷修堤碑には度重なる六郷川の水害に悩む当時の村の様子と村民を救済するため村長として同川の改修事業に立ち上がり、困難を乗り越え事業の成功に向かって、いかに尽力されたか、一端と事業の概要などが記されている。

碑は、当初阿遅速雄神社境内に建立されたが、その後放出大橋の南側に移され同橋の改修工事に伴い平成 15 年 (2003) 7 月、本因寺境内に再度移された、六郷川は、もと旧寝屋川の南沿いを向川と共に流れていたが、昭和 3 年 (1928) 一本化され現在の寝屋川となった。

修堤碑の奥に、大橋房太郎氏の墓を中央にして左には氏の後任の村長、碑の撰文者でもある牛谷彌氏の墓があり右には村会議員で氏のよき理解者であり片腕とも言われた森田嘉平治翁の顕彰碑がある。先人たちの篤き思いが、ここにこの修堤碑を呼び寄せたとの思いが伝わってくる。

○高槻市 清福寺町 陸軍工兵殉難之碑 水害





(碑文 要約)

昭和10年(1935)6月29日、関西地方は前例のない豪雨に見舞われた。周辺の河川で決壊が起こる中、芥川でも増水し、今にも決壊する恐れが高まった。工兵隊に出動要請をし、水防活動が行われた。その最中、工兵1名が激流にのまれ、殉職した。(北野小一郎上等兵は、芥川の増水に際し堤防防御に出動、木流し工法により決壊を防ぐものの作業中に濁流に転落し殉職した。その殉職された上等兵北野小一郎さんの慰霊顕彰碑が真上門前橋を少し南に下がった桜堤に建てられている。)

●大阪市 中央区 大阪城公園内 教育塔 強風・高潮



(碑文 背景)

1934 年 9 月 21 日朝、室戸台風が関西地方を襲った。秒速 60m という強風及び大高潮はあらゆる方面に大惨事を及ぼした。

学校においては始業の前後でもあり多数の木造校舎が倒壊し、教職員 25 人をはじめ 600 人を超す子どもたちが亡くなるなどの甚大な被害があった。

災害直後、大阪の教育界は二度とこのような惨事が起こらないことを願って、子ども、教職員を追悼し、その名を永くとどめるため、記念碑の建設を発議し、帝国教育会が臨時総会において記念塔を建設することを決定した。

全国の教育関係者はこの呼びかけにこたえ、児童、生徒、教職員、一般有志の方から 32 万円を超える寄付が寄せられ、大阪城公園に教育塔ができた。

1935 年（昭和 10 年）9 月地鎮祭、1936 年（昭和 11 年）8 月定礎式、1936 年（昭和 11 年）10 月 30 日に竣工の運びとなり、この日に第 1 回教育祭が行われた。以来、教育祭は例年 10 月末に挙行されてきた。

塔の建築には教育塔建設費に 17 万 5 千円、式典費、準備費等で合計 32 万円ほどがかかった。公募により、塔の設計は島川精さん、塔の正面のレリーフは長谷川義起さんが選ばれた。

祭典は建設当時から神式あるいは仏式で行われていたが、1948 年、日本教育会（「帝国教育会」改称）が解散、日本教職員組合が塔の維持・管理と教育祭の主催を受け継いでからは、宗教色をなくすよう努め、現在は無宗教形式で行われている。1981 年には、教育塔内正面の塔芯文「咸一其徳」（咸其の徳を一にす）から「やすらかに」に改め、塔芯裏の「説明文」を戦前調のものから現代風に改められた。

1986 年には「合祀」を「合葬（がっそう）」に、「祭主」を「主催者」に「奉納音楽」を「追悼音楽」に、献花中の音楽を「越天楽」から「葬送曲」に変更された。

第 50 回（1985 年）教育祭では 180 人が合葬され、特別合葬者の中には御巢鷹山での日航機墜落事故（1985 年）の犠牲者 41 人が含まれている。

第 60 回（1995 年）教育祭では、阪神・淡路大震災で自宅の倒壊や火災により亡くなった 121 人の特別合葬者を含む 154 人が合葬され、「教育塔説明掲示板」も全面的に書き改められた。

第 70 回（2005 年）教育祭では、新潟県中越地震により亡くなった 4 人の特別合葬者を、第 77 回（2012 年）、78 回（2013 年）、79 回（2014 年）の教育祭では東日本大震災の犠牲となられた 51 人の特別合葬者を含む方々を合葬している。

● 大阪市 此花区 津波





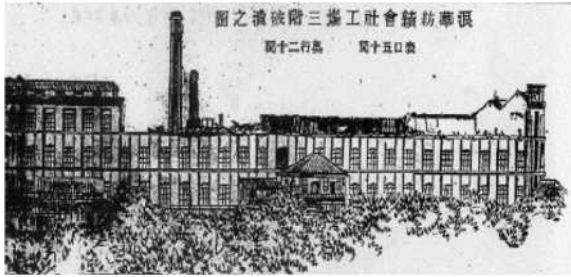
(碑文 背景 此花区 HP から引用加筆)

安政三年海嘯溺死者各位之霊

此花区内における江戸時代最後の新田開発請負人、常吉庄左衛門の没後 50 回忌にあたる明治 40 年に建立された。併せて安政元年 (1854 年) の海嘯 (津波・碑面には安政 3 年となっている) による犠牲者を祀っている。この辺りは、大正期ごろまで美しい松が生い茂り「千本松」といわれていたが、今はその面影はない。

●大阪市 此花区 正蓮寺 震災





(碑文 背景 長尾武氏論文から引用)

遠く濃尾地震によって亡くなった職工・女工さん 22 名の慰霊碑

(『浪華紡績会社震災死の慰霊碑』)

遥かに離れた岐阜を震源とする地震が、なぜ、大阪で犠牲者を出すほどの被害を引き起こしたのか。浪華紡績会社・工場の倒壊 濃尾地震での大阪府の死者 24 名のうちの 22 名は西成郡南伝法村（現大阪市此花区）の浪華紡績会社（現在、UR 伝法団地）で働いていた職工・女工さんだった。浪華紡績会社は、明治 21 年（1888）開業、据付錘数一万錘以上の大工場で、西洋式の新築間もない工場が倒壊した。倒壊した第二工場は 50 間（90 メートル）に 20 間（36 メートル）のレンガ造三階建、昼夜交代制で、地震が起こった 6 時 30 分頃は、前夜から勤務していた者と昼間勤務の者とが交代した直後であった。当時 567 名の労働者が工場内にいたが、ただならぬ地震の揺れに驚いて、多数の職工・女工さんは狭い階段を先を争って階下に逃れようとした。工場の屋根が落ち、さらに三階の壁が内部に向けて倒れ、多くの職工・女工さんたちが瓦礫の下敷きとなった。当時の大阪朝日新聞の挿絵から、3 階の大部分が崩壊したことが分かる。

朝にかかわらず、多数の死者があったのは、昼夜 2 交代制の厳しい労働条件だったからであろう。

女工さんたちは工場と正蓮寺川の中州にあった寄宿舍を往復する毎日であった。細井和喜蔵『女工哀史』に浪華紡績会社の被災についての記述がある。

（ただし、死者数などについての誤りもある。）近代的紡績工場がなぜ倒壊したか？ 被害地を調査した大森房吉は浪華紡績会社の倒壊について、大阪のように地震の揺れがそれほど強くない地で倒壊したのは、設計に問題があったとしている。また、工場の二階三階の床横木は壁の切り込みに 載せてあるだけで、建物が振動するに連れて壁から脱落してしまったと述べている。付近の民家や寺に大きな被害が無かったことから、工場の倒壊は耐震性が極度に劣っていたといえよう。大阪府下での揺れの強さ濃尾地震によって浪華紡績会社が倒壊し、22 名の犠牲者がでた。大阪府下での死者は、浪華紡績会社を除けば 2 名であった。当時、大阪市内（東・西・南・北区）では倒壊した家屋は北区で 4 戸であった。西成郡では、現西淀川区千船で寺院の本堂が倒壊、御幣島で

田畑が陥没、現大正区三軒家でレンガ造の建物に被害、郡全体で倒壊家屋は9戸であった。東成・住吉両郡では家屋の倒壊は5戸、多くの石灯籠が倒れた。生駒山地の西側低地に位置する河内地方で最も被害が大きく、若江郡、現・東大阪市で55戸が倒壊した。住家の被害程度から、大阪府下の震度は弱いところで4、強いところで6弱と推定された。鉄筋コンクリート造建築の主流化濃尾地震は近代化の途上にあった日本の国民、政府にとって大きな衝撃であった。翌年、震災予防調査会が発足し、「被害の軽減」を任務として、具体的には「耐震建築の方法」と「地震予知の方法」を開発することに力を注がれた。レンガ造建物の非耐震性が認識され、耐震性・耐火性を併せ持つ鉄筋コンクリート造建築が注目されるようになった。

1923年に起こった関東大震災でも、再びレンガ造建築に多くの被害が出て、以後、鉄筋コンクリート造建築が主流となった。

しかし、弱いと思われているレンガ造であるが、英国人コンドルの指揮によって施工されたレンガ造など、関東大震災でも無被害であったものもある。レンガという材料に問題があるのでは無く、造り方の問題もあるといえよう。当時の建築技術をリードした佐野利器は、

「鉄筋コンクリート構造はその手法よろしきを得れば最も簡単に耐震、耐火、耐久的たり得べきことを断定し得る」

と述べている。また、関東大震災後、麴町番町小学校の鉄筋校舎建設に尽力した同小学校主席訓導・肥沼健次は

「設計に誤りが無く、施工に誤魔化しが無ければ、本建築（鉄筋コンクリート造）の耐久力は実に偉大なもの」

と述べている。設計、施工が正しく行われるという条件がそろって、鉄筋コンクリート造の耐震性が保証される。

承継法人の東洋紡におかれては、毎年お盆の時期にお参りされておられるとのことである。

石碑の文字の下には「震災」という文字が刻まれている。

●大阪市 福島区 海老江中公園内 水害



（碑文 背景）

淀川流域は明治一八年の大洪水をはじめ、長年にわたり水害によって大きな被害を受けていた。改修への要望は大橋房太郎によって具体化し、明治三〇年）に着手、明治四一年にほぼ完成した。蛇行川をまっすぐにするため、海老江村は七割近くが水没した。新しい川は「新淀川」と呼ばれ、水害の被害は少なくなった。

（碑文 原文）

疏河紀恩之碑

淀江之水浩浩洋洋岐於神崎枝於中津其本流則入浪華故受利多在城市被害率在郡村當其一時暴漲則破堤流土汎濫橫溢村沒於泥海人叫於飢渴豈不可謂慘哉沿岸志士憂之有年一旦奮起大圖除其害講法於學術竭力於建議上下兩院遂納之政府可之於是廿九年起工卅九年略竣功蓋旧中津川直径凡二百間今則為三百六七十間水路自長樂分下至海口旧長六千七百廿間今則為五千三百間其堤防堅實宛然如丘阜而南堤外別鑿一渠便於漕運總資凡一千万円其半費于此中津川是疋為本区改修之大要嗚呼今也沿岸衆庶各安其業而得遂仰事俯育之樂音抑誰之賜也今茲西成郡海老江部落某々相謀欲建石於祇園祠前紀其恩以告後世子孫來請予文乃叙其梗概且之

銘曰澱江之水神世叵稽其見于史曰茨田堤此花之址世伝遺芳豐崎之跡幾遭滄桑、
武門迭興豺平是虎磨爪張牙何間民苦、元和偃武頗治河川仍是霸術用威弄權、懿
矣明治先民之利疏河大成生死易地、昔泣泥海今醉春風維此貞石永勒偉功明治四
十一年歲次戊甲春三月、浪華黙化道人田部密撰并書浪華大黒橋飯田明尊刻

○大阪市 城東区 榮照寺 風水害





(碑文 背景)

昭和9年(1934)9月21日の朝、近畿地方一帯を襲った室戸台風により、城東区内では寝屋川、平野川が氾濫したため新喜多、鳴野、蒲生、今福、放出、中浜一帯が浸水し、多数の家屋に被害が出た。城東区内の2つの小学校が暴風に耐えきれずに全壊し、児童教職員56名の命が奪われた。子どもの犠牲が大きかったのは、台風襲来時と登校時が重なったことと、木造校舎の倒壊のためであり、以後大阪市では校舎の全面鉄筋化を進めることとなった。



天王寺第一小学校校庭での授業 昭和 9 年 個人蔵から引用

大阪市内の小学校では、全 244 校の約 7 割で、暴風により校舎が全壊するなどの被害があり、児童・職員合わせて 278 名がなくなった。天王寺第一小学校（現天王寺小学校）でも大正 8 年（1919）竣工の木造校舎が全壊したが、校長の指示で鉄筋コンクリート造の講堂に児童が避難したため、一人の犠牲者も出さなかった。大阪市ではこの台風被害を受けて校舎の RC 化が進められていくことになった。

○大阪市 城東区 今福小学校 風水害



(碑文 背景)

昭和9年(1934)9月21日の朝、近畿地方一帯を襲った室戸台風により、城東区内では寝屋川、平野川が氾濫したため新喜多、鳴野、蒲生、今福、放出、中浜一帯が浸水し、多数の家屋に被害が出た。鯉江第三小学校(現在の今福小学校)が暴風に耐えきれずに全壊し、児童33名の命が奪われた。子どもの犠牲が大きかったのは、台風襲来時と登校時が重なったことと、木造校舎の倒壊のためであり、以後大阪市では校舎の全面鉄筋化を進めることとなった。

○大阪市 城東区 聖賢小学校 風水害



(碑文 背景)

昭和 9 年(1934)9 月 21 日の朝、近畿地方一帯を襲った室戸台風により、城東区内では寝屋川、平野川が氾濫したため新喜多、嶋野、蒲生、今福、放出、中浜一帯が浸水し、多数の家屋に被害が出た。鯉江第二小学校（現在の聖賢小学校）が暴風に耐えきれずに全壊し、児童 22 名、児童の兄 1 名、教員 1 名の命が奪われた。子どもの犠牲が大きかったのは、台風襲来時と登校時が重なったことと、木造校舎の倒壊のためであり、以後大阪市では校舎の全面鉄筋化を進めることとなった。

●大阪市 西淀川区「外島保養院」跡地 室戸台風



(碑文 原文)

「明治四十二年四月 法律第十一号ニ基ヅキコノ地ニ第三区府県立「外島保養院」設立サレル 即チ 大阪府主管ノモト京都 兵庫 奈良 和歌山 滋賀 三重 岐阜 福井 石川 富山 鳥取 の二府十県連合ニヨル 公立ハンセン病療養所トシテ開設サレタノデアル

昭和九年九月二十一日室戸台風ノ襲来ニヨリ施設ハ壊滅流失 患者百七十三名職員三名職員家族十一名ガ死亡スル大惨事トナリ生存患者四百十六名ハ全国六施設ニ分散委託 昭和十三年四月岡山県長島ノ西端ニ名称ヲ光明園ト改メ復興昭和十六年国立移管 邑久光明園ト改称現在ニ至ル

平成八年四月「らい予防法」廃止サレル 強制収容絶対隔離ヲ根幹トシタ日本ノハンセン病対策ノ終焉ヲ記念シ外島保養院ノ日々ニ思イヲハセ茲ニ記念碑ヲ建立スルモノデアル

平成九年十一月 邑久光明園入園者自治会」

(碑文 背景)

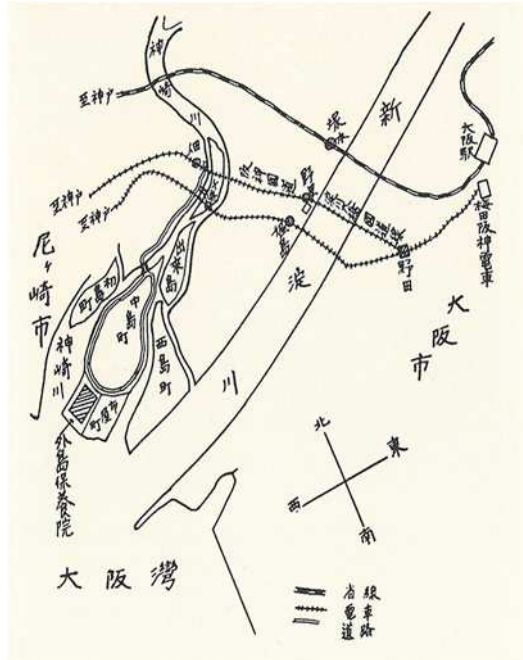
「外島保養院」は明治 42 年（1909 年）に開設されたハンセン病療養所である。当初、敷地 2 万坪、定員 300 名の規模であった。なおも増設工事が行われていた、昭和 9 年（1934 年）9 月 21 日の室戸台風により入所者 173 名（当時の入所者 597 人の約 3 割）・職員 3 名・職員家族 11 名・施設拡張工事関係者 9 人、計 196 名の尊い命が奪われた。

壊滅的被害を受けた建物は再建されることなく、岡山県邑久郡の長島に「邑久光明園」として再興された。

ハンセン病患者に対して、国・地方自治体が推し進めた強制隔離政策は、重大な人権侵害であり、社会に様々な偏見・差別を生み、患者・元患者・家族の方々に多大な苦痛と苦難を強いてきた。「らい予防法」が廃止されたことを記念して国立療養所邑久光明園入園者自治会の方々が、「外島保養院」跡地に平成 9 年（1997 年）11 月 19 日記念碑を建立された。



「第 38 回地方自治研究全国集会第 7 分科会 福祉、環境、農業…地域の宝を探し出せ」から引用



「People / ハンセン病に向き合う人びと」から引用

殉職悲話の絵画は、大阪府津波高潮ステーションにて撮影

○大阪市 東成区深江南 水害





（碑文 要約）

明治18年（1885）の淀川洪水のうち6月末～7月初めにかけての2度目の水害について記す。深江村においては6月30日の夜から浸水し、水位は庭の地面から約2.6mに達し、土塀が皆倒れた。村民は上本町の寺院などに避難したが、1箇月余りのちに帰村しても家も仕事もない状態であった。平時にあっても災害時の窮状を忘れないようにと戒めている。

（碑文 背景 日経2021年4月8日から引用）

菅笠の里・深江に残る水害碑、幕末～大正期の歴史映す時を刻む江戸時代に盛んだった伊勢参り。大坂からの道中で人々は「深江の菅笠」を買い求めた。その産地だった大阪市東成区の深江地区で2020年12月、旧家の土蔵で眠っていた2基の石碑の除幕式が行われた。1基は幕末～明治期の災害や騒動、もう1基は特に被害が甚大だった明治18年（1885年）の淀川洪水について記す。水がもたらす恵みと危険に寄り添い暮らした人々の息づかいが伝わる。

2基の石碑は今、同区深江南の深江郷土資料館の敷地に立つ。同館の代表理事、石川健二さんらによると、石碑は同館に隣接する旧家の土蔵に保存されて

いた。旧家の邸宅は総檜（ひのき）造り 2 階建てで築 80 年以上。20 年春に地域の歴史資産として保存することが決まり、石碑の調査も始まった。

碑文の解説を担当した市立枚方宿鍵屋資料館（大阪府枚方市）の学芸員、片山正彦さんによると、経年劣化で判読できない箇所もあったが、2 つの石碑には幕末から明治にかけて起きた災害や騒動、それらが人々の暮らしにどう影響したかが克明に記されていた。

明治 18 年淀川洪水を伝える石碑は高さ約 180 センチ。片面に「十八年洪水」、その裏に「酉歳（とりどし）記念碑」と大きく横書きされ、碑の 4 面に文字が刻まれる。氾濫を繰り返した淀川の歴史の中でも、明治 18 年の水害は特に被害が大きく、日本における最初の近代治水工事、新淀川の開削（1909 年完成）を含む淀川改良工事のきっかけにもなった。

その歴史的な水害は、1885 年 6～7 月に発生した。豪雨による増水で現在の枚方市付近の堤防が決壊。さらに台風が追い打ちをかけ、濁流が南西方面を襲った。大阪府内の浸水家屋は 7 万戸を超え、現在の大阪市内も上町台地を除く低地部の大半が浸水した。生駒山地と上町台地に挟まれた地帯は、古代には河内湾と呼ばれる海だった。そこに淀川などが運ぶ土砂で肥沃な平野が形成されていたが、この水害の浸水域はまさに古代の河内湾のような様相だったという。深江の地には、笠を縫うことを職業とした古代の大和の氏族が移り住んだ笠縫島があったという伝承があり、一帯は菅笠の材料となる良質な菅（すげ）が茂る湿地だったという。江戸期には伊勢参りの菅笠で栄え、水辺の暮らしの恩恵を受けたが、水害もまた身近だった。



●大阪市 港区 築港南公園 風水害





(碑文 背景 大阪市港区 HP から引用)

昭和 9 年 9 月 21 日、風速 60 メートルに達する室戸台風が大阪を直撃し 1,800 名余りの死者が出ました。室戸台風の被害を忘れず、犠牲者の霊を慰め、全国からの救援に感謝する趣旨で昭和 11 年（1936 年）9 月に「風水害記念碑塔」が建てられました。しかし戦災にあい、築港中学校の敷地となるために撤去され、現在は碑文のみが昭和 51 年（1976 年）に新たに造られた「水防碑」とあわせて、築港南公園入口に設置されています。また水防碑には

「災害は忘れたころにやってくる」と記され、災害の恐ろしさを伝えています。

（碑文 原文）

港区をはじめ西大阪は、これまで高潮により幾多の水害に見舞われたが、なかでも昭和9年（1934年）の室戸台風、同25年（1950）のジェーン台風、36年（1961）の第2室戸台風により多くの人命と財産が失われた。近年こうした大水害は、ほとんど見られなくなったが、このような平時においても、なお一層人々が、水防意識を高め不断の努力で災害を防除することを念願してこの碑を建立し、あわせてこの近くに建立されていた風水害記念塔の銘板を右に設置する。

昭和52年 秋 大阪市

●大阪市 港区 天保山 風水害





(碑文 要約)

「港区の水災記録」昭和 20 年(1945 年)9 月 18 日枕崎台風による被害で防潮堤が決壊。区民への水害影響は 54 日にも及んだ。戦災による人口の激減・物資窮乏の中で区民は懸命に立ち上がり防潮堤を補強。「港防潮区分団」を創設した。昭和 25 年(1950 年)9 月 3 日ジェーン台風により大水害を被る。港区は特に被害甚大で、水中生活は 12 日にも及んだ。この災害を教訓に大阪府市が高潮対策を拡充強化する。昭和 36 年(1961 年)9 月 16 日猛烈な第二室戸台風が襲来。市岡方面まで流水が及んだものの浸水による大きな被害はなかった。港区で発生した台風による水災被害と区民の尽力による水防の記録が刻まれている。

○大阪市 西区 九条東小学校 暴風水害記念誌 風水害







（碑文 要約）

朝方、室戸岬（高知県）より風速60mの突風台風は、3mほどの高潮と伴い、午前8時に大阪市を襲い、これまでにない惨禍をもたらしました。市内の家屋、工場、店舗は倒壊・流失、公営物の損害等あり、死者990名、重軽症者16908名にのぼりました。なかでも小学校の被害は最も甚だしく、校舎の全壊28、半壊71、大破77、それに、殉職教員7名、惨死児童269名に及びます。九條一帯は大きな難は免れますが、屋根瓦は木の葉のごとく飛び散り、濁流が押し寄せ、全戸床上浸水し、交通・通信・電燈は途絶し、各学校に殺到し、避難者は100名に達します。前代未聞の大災に遭いましたが、当西区内にひとり死傷者も出ずに復興の途についたのは神明の加護によるものと区内の関係者各位の応急の措置によるもので、『禍を転じて福と為し』で、今や新興の気概をもち、第一、第二、第五各小学校の復興も目前にあり、ここに九條教育会は、各種団体と協議し、事蹟を碑に刻みこれからの戒めの備えとします。

昭和13（1928）年3月

（碑文 原文）

昭和九年九月二十一日早暁室戸岬を掠メタル風速六十米突ノ猛颪風ハ三米突ニ近キ高潮ヲ伴ヒ其ノ日午前八時我カ大阪市ヲ襲ヒテ實ニ前古未曾有ノ惨禍ヲ齎ラシ市内住家工場店舗ノ倒壊流失公営物ノ損害等算ナク死者九百九十名重軽傷者一萬六千九百八名ニ上レリ
就中小学校ノ被害最モ甚タシク校舎ノ全壊二十八半壊七十一大破七十七ニ及び爲ニ殉職教員七名惨死児童二百六十九名ヲ出セリ我カ九條一圓亦此ノ禍難ヲ免ルニ能ハス烈風ニ屋根瓦ハ木ノ葉ノ如ク飛散シ濁流ハ滔々トシテ全戸ノ床上ヲ

浸シ街上恰モ舟ヲ行ルヘク交通通信ノ便杜絶シ電燈モ之ヲ点スルニ由ナク上水並ニ瓦斯ノ用モ亦断タレ各学校ニ殺到セル避難者數百名ニ達シ人心競々危惧困惑名状スベカラス斬ル前代未聞ノ大雙災ニ遭遇シテ然モ當聯合區内ニ一人ノ死傷者ヲモ出サスシテ復興挽回ノ途ニ就クヲ得タリシハ是レ洵ニ神明ノ加護ニ依

ルモ區内各学校関係者應急ノ措置ノミナラス 青年團在郷軍人分會國防婦人會

専ラ警備配給ニ任シ方面委員衛生組合ノ諸氏等主ニ救護衛生ノ衝ニ當リ各々挺身戮戦カシタリ其ノ勞ヤ多トセサルヘカラス爾來當路者ノ熱誠ト區民一致ノ不撓ノ努力ハ禍ヲ轉ジテ福ト爲シ今ヤ新興ノ氣街衢に漲リ損傷甚ダシカリシ第一第二第五各小学校ノ復興モ目睫ニアリ此時ニ方リ九條教育會ハ各種公共團體ト相議リテ此ノ災雙ノ事蹟ヲ碑ニ刻シ以テ向來ノ鑒に備フ

昭和十三年三月

●枚方市 長安寺 暴風





(碑文 原文)

遭難供養塔

昭和九年九月廿一日午前八時未曾有ノ大暴風関西一圓ニ襲來セリ風速六十米ヲ突破シー瞬ニシテ我ガ牧野小學校倒壊シ訓導松田武行伊東綾子ニ氏殉職セリ學童田宮操岡本朝野中瀬ハル子中城正雄山本岩夫田中茂代松村祐吉笠井政枝北牧キミ子上田恵美子嶋田愛子小川タツノ日垣スミ田中正夫井口アキノ十五名其災禍ニ遇ヒ犠牲トナル 寔ニ痛恨限リナシ茲ニ小碑ヲ建テ以テ諸士ノ英靈ヲ慰メントス

昭和十年九月廿一日

長安寺住職

村田 瑞澄 建立

○寝屋川市 水本墓地 暴風





(碑文 原文)

昭和九年九月二十一日午前七時五十分近畿地方ニ大颱風襲来シ本村小學校新築
二階建て校舎倒潰シ學童死者十三名ノ犠牲者ヲ出シタリ翌二十二日大字燈油七
名ノ個人葬ヲ當墓地ニ行ヒ超ヘテ十月二十一日小學校校庭ニ於テ校葬ノ禮ヲ以
ッテ合同葬ヲ營マル参列者知事代理以下二千余名實ニ前古未曾有ノ盛典ナリキ
茲に遺族相謀リ一碑ヲ建テ永久ニ記念セシントス

昭和十年二月二十一日 建之

西岡松次郎	松岡松太郎
西岡榮三郎	西本時松
樋口竹蔵	滝口慶三郎
岩崎時次郎	

「ゆく里なく花の蕾ちらしたる風うらみつつみ魂安めむ」

(碑文 要約)

昭和9年(1934)9月21日午前8時、大阪に上陸した室戸台風では、風速60mの強風と満潮が重なったことで、阪神地方に高潮による浸水、堤防の決壊等の被害をもたらした。寝屋川市では、当時の水本尋常高等小学校の新築2階建校舎が強風で倒壊し、児童13名が亡くなった。この碑は、当時の燈油出身者7名の慰霊碑。

○寝屋川市 打上墓地 暴風





（碑文 要約）

昭和9年(1934)9月21日午前8時、大阪に上陸した室戸台風では、風速60mの強風と満潮が重なったことで、阪神地方に高潮による浸水、堤防の決壊等の被害をもたらした。寝屋川市では、当時の水本尋常高等小学校の新築2階建校舎が強風で倒壊し、児童13名が亡くなった。この碑は、当時の打上出身者5名の慰霊碑。

●茨木市 安威川茨木川合流 水害





1920 年代の茨木の地図⇒茨木川と安威川が合流していない。



2000 年代の茨木市の地図⇒茨木川と安威川が合流しており 1920 年のより川が直線化されている。

（碑文 背景と現在）

茨木川と安威川は過去に堤防の決壊を起こしていた。1934 年 7 月に豪雨により茨木川と安威川が決壊。1935 年 6 月にも茨木川と安威川が決壊。そして、同年 8 月にも茨木川と安威川が決壊。これでは、何度も何度も決壊してしまい何度も洪水で町がやられてしまうということで、当時の茨木町が対策を講じようとする。

茨木町や周辺流域の自治体、大阪府だけでは改良工事はできないということで、大阪府は政府に援助を求めた。そこで茨木川と安威川の改良工事をするこ

とが決定した。改良工事の案として、茨木川と安威川を合流させることだったが、安威川流域の住民が反対。そこで、河川を直線化して決壊の恐れを減らし、堤防をより高くし、河川を低くし、合流地点には茨木川側に水門を設置する、ということで合意。

そして、1937年に工事が開始された。その結果、1943年に茨木川の付け替え工事が終わり、1949年に合流地点より下流の茨木川が廃川となった。

しかし、1967年に茨木市を含め集中豪雨を襲い、茨木川と安威川は再び決壊してしまい、多数の人的被害や建物に被害が出た。そこで、安威川の流域である茨木市、高槻市、吹田市、摂津市、大阪市の市長らが安威川ダムを建設する河川整備を大阪府に要求。安威川は東海道新幹線や名神高速など日本の大動脈を通過する河川であり再び決壊を起こしてしまえば、大阪だけではなく全国にも物流などで二次被害が発生する可能性があり、大阪府は安威川の上流にダムを建設することになった。

●枚方市 砲弾解体中の引火





↑ 枚方市 HP から（現地撮影不可のため）

（碑文 原文）

昭和十四年三月一日本町禁野区内ニ火災勃発スル中、本町公設消防組員茨木安三、小笠原慶五郎、小路政治郎、出口義三、坂本彌市、瀧川義秀、西川重吉、丸山利吉門、田豊繁、竹内丑太郎、今堀春三、余膳繁一郎、森本藤松、山中道雄、森崎丑松並ビニ町会議員山本徳次郎ノ諸氏ハ決然現場ニ出動善ク消火ニ奮闘シ、遂ニ殉職ス。其ノ行動タルヤ実ニ警防精神ノ発露ニシテ衆庶ノ亀鑑タリ以ッテ茲ニ碑ヲ建立シ諸氏ノ遺勲ヲ永久ニ讃フ。

昭和十五年三月一日 枚方町建之

（碑文 枚方市 背景 HP から引用）

戦前、この一帯には、陸軍の兵器用火薬や砲弾・弾薬を収蔵する禁野火薬庫がありました。禁野火薬庫は、昭和14年（1939）3月1日午後2時45分、大爆発を起こし、火薬庫はもちろん周辺の住民に大きな被害をもたらしました。軍人・民間人を含む死者100人近くにのぼり、家屋の全半焼は821戸および多数の負傷者を出す大惨事となりました。この殉職記念碑は火薬庫の大爆発による消火活動等に従事して殉職した消防関係者16名を慰霊するため、昭和15年（1940）3月1日に建立されました。枚方市は、禁野火薬庫大爆発から50年目の平成元年（1989）に、「3月1日」を「枚方市平和の日」と決めました。



(碑文 原文)

殉職義烈之碑



(碑文 背景 現地案内板より)

戦前、この一帯には、陸軍の兵器用火薬や砲弾を収蔵する禁野火薬庫がありました。

禁野火薬庫は、昭和41年(1939)3月1日午後2時45分、大爆発をおこし、火薬庫はもちろん周辺の住民に大きな被害をもたらしました。軍人・民間人を含む死者100人近くにのぼり、家屋の全半壊821戸および多数の負傷者を出す大惨事となりました。

この「殉職義烈之碑」は、禁野火薬庫職員38人の殉職者を慰霊するため、昭和15年(1940)3月1日に建立されました。

枚方市は、禁野火薬庫大爆発から50年目の平成元年(1989)3月1日に、「3月1日」を「枚方市平和の日」と決めました。 枚方市

● 摂津市 千本つきの歌 淀川 水害





(碑文 原文)

千本つきには／調子のござる足と手と口／三拍子。

(碑文 背景)

千本つきとは、土木作業の一種の地固め作業のこと。

古代から淀川は、沿川に住む人々に多くの恵みをもたらしたが、その半面洪水が多く、推古天皇の時代から記録に残されているものだけで、250回を越えるといわれている。

そのつど労役に駆り出されたのは、兩岸の農民達であった。明治 18 年の大洪水をきっかけに、本格的な堤防工事が始まり、沿岸の農民達は労働者として河川工事に参加。男達はモッコやトロッコで土を運ぶ仕事をし、女達は五尺

(1.5m) ほどの杵を持って堤防上に並び、土砂を突き固める作業を受け持った。そのとき歌われた「千本つきの歌」の冒頭部、「千本つきには／調子のござる足と手と口／三拍子」が石碑に刻まれている。

●枚方市 上庄南之口樋跡





(碑文 背景)

江戸時代に淀川大洪水があり、洪水を下流に流す為に五兵衛が赤井堤を切ったと誤解され、下流の村人からリンチにあい殺された。後に新たに赤井堤に悪水を流す樋が造られこれを五兵衛樋と呼ばれた。

●堺市 関西大風水害殉職者慰霊碑 風水害



↑防潮堤竣工記念碑

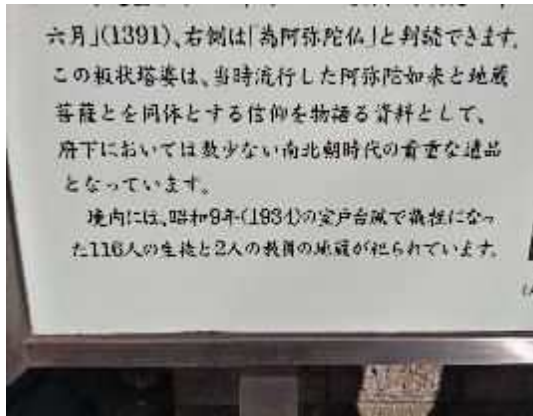
(碑文 原文)

この地もと河口の寄洲高潮の覗うところ室戸に次ぐジェーン台風の憾みは深く、市民の祈念が凝って防潮堤の竣工となる かくて海浜の護りは固く脅威はついに霧消した 昭和 31 年 9 月 堺市長 河盛安之介

いたましの霊に捧げん真なる心の薫り永遠にうけませ

●堺市 十輪院 風水害



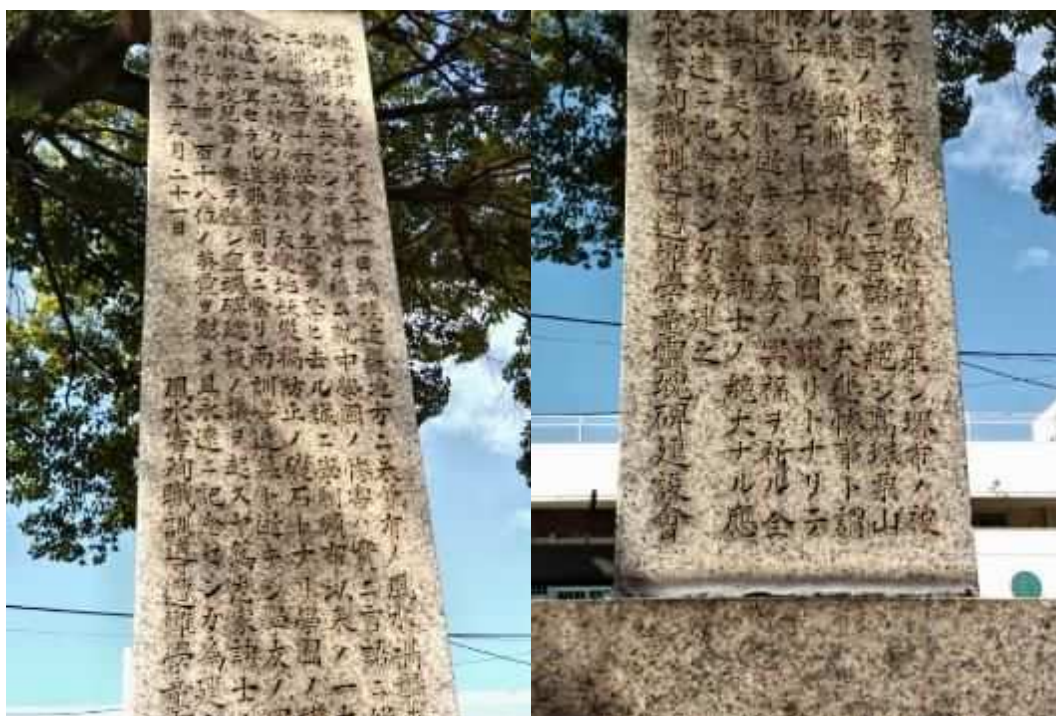


(碑文 原文)

昭和9年9月廿一日風水害遭難訓導名記

●堺市 宝珠院 風水害





(碑文 原文)

風水害殉職訓導遭難学童靈魂碑

(碑文 背景)

三宝小学校を始めとして市内各小学校の被災学童と訓導の名前が刻まれている。先頭にあるのは三宝小学校で避難誘導にあたっていて殉職した栗山優訓導。栗山訓導は学童の最後尾で学童を励まし続け、ついに学童と共に高潮にさ

らわれた。ここに記されているのは、三宝小学校で高潮により 54 名の学童と 1 名の訓導が、錦小学校では校舎倒壊の下敷きになって 39 名の学童と 1 名の訓導、湊小学校でも校舎倒壊で 14 名の学童が、その他にも校舎倒壊で、少林寺小学校で 3 名、南旅籠小学校（後に英彰小学校に合併）が 2 名、錦西小学校で 1 名、同高等小学校で 1 名、錦綾小学校で 1 名と学童 116 名、訓導 2 名の犠牲者名がある。

●堺市 月蔵寺 風水害



(碑文 原文)
大風水害惨死者供養塔
昭和 10 年 9 月

●堺市 経王寺 風水害







(碑文 背景)

校舎が倒壊して多数の死傷者があった錦小学校の西隣りの境内墓地にある、錦小学校の学童と訓導を慰霊する供養塔。三周忌にあたって建てられたもので、背後には今の錦小学校の校舎が見える。

供養塔には亡くなった高塚武訓導を中心にして学童たちの俗名が刻まれ、裏面には錦小学校で死者 40 名、負傷者 200 余名もあった罹災状況と、その霊を祀るために建立された旨が記されている。

今でも 9 月 21 日には錦小学校の学童や学区の人たちがお参りされておられる。

●堺市 三宝小学校 風水害





↑ 教頭先生からお借りした記念誌

(碑文 原文 室戸台風関連)

顕彰碑 故栗山優先生

昭和九年九月室戸台風の際児童を助けて殉職

●堺市 三宝公園西 津波





(碑文 背景)

この附近は宝永元年（1704年）の大和川の付替え以降、河口に堆積した土砂による附洲（つきす）を利用した新田開発が盛んにおこなわれた地域である。

かつては海に近かったこの場所に祀られている「波切不動尊」は、唐から帰る弘法大師を守ったと伝えられ、海難除け、航海安全はもとより、「波切」と「難切り」を掛けて、地域の篤い信仰を集めている。

傍らに立つ石碑は、寛政3年（1791年）8月20日の「海嘯（かいしょう）」（潮津波）によって命を落とした人々の50回忌にあたる、天保11年（1840年）に建てられた供養碑。供養にあたっては、南嶋の光得法師が願主となり、来迎寺の蘭崑上人が導師をつとめたことなどが刻まれている。「堺市史」によれば、当時、中浜筋一帯まで潮が押し寄せ、壊れた船や流木が町中に流れ込むなどして、多くの人々が被災したと伝えられている。

海に接して発展してきた堺の町では、海から多くの幸を得るとともに、このような苦難の歴史も忘れられることなく、語り継がれている。

●大阪市西区 関西風水害浸水深（現存せず） 風水害



↑ 両写真とも、石碑が現存しないため、大阪市内で戦争と平和を考える HP から引用





(碑文 原文)

「昭和九年九月二十一日関西風水害浸水々水位標」

室戸台風の時の浸水線が 95 cmの所に横線で彫られ、「最高水位線」記載されている。

近くにお住まいの方（85 歳）に聞き取りましたところ、

「5 歳の時にこの場所に引っ越して来ましたが、いつもこの石碑の文字が見やすくなるように磨いていました。また、水害の時は近くのお地藏様を抱きしめて避難したという伝説が残されています。しかし、2 年くらい前に突然、企業の方が地元自治会に無断で、移転されてしまいました。大切な石碑が今どこにあるのか不明でとても残念なことです」とのことでした。